



わが県の子どもたちの数

～「こどもの日」にちなんで～



5月に入ると、昔はどこの家でも鯉のぼりが泳いでいましたが、今ではめっきりその姿が見られなくなったように感じます。今回は「こどもの日」にちなんで、こどもの数について、調べてみました。

(全国)

平成25年4月1日現在におけるこどもの数(15歳未満人口、以下同じ)は、前年に比べ15万人少ない1649万人で、昭和57年から32年連続の減少となり過去最低を更新しました。また、総人口に占めるこどもの割合は12.9%となっており、39年連続の低下となっております。



(都道府県)

(1) こどもの数は東京都、沖縄県では増加

都道府県別の平成24年10月1日現在におけるこどもの数をみると、前年に比べ増加しているのは東京都及び沖縄県となっており、その他の道府県では同数又は減少となっております。



(2) こどもの割合は沖縄県が最も高い

こどもの割合をみると、沖縄県が17.6%と最も高く、次いで滋賀県が14.8%、佐賀県が14.4%などとなっております。(表1)

表1 こどもの割合の高い上位5県(平成24年10月1日現在)

都道府県	平成24年			対前年度差	
	こどもの数(千人)	割合(%)	割合の高い順	数(千人)	割合(ポイント)
全国	16,547	13.0	-	-158	-0.1
沖縄県	248	17.6	1	1	-0.1
滋賀県	210	14.8	2	-1	-0.1
佐賀県	121	14.4	3	-2	-0.1
愛知県	1,056	14.2	4	-7	-0.1
宮崎県	156	13.8	5	-1	-0.1
東京都	1,494	11.3	46	3	0.0

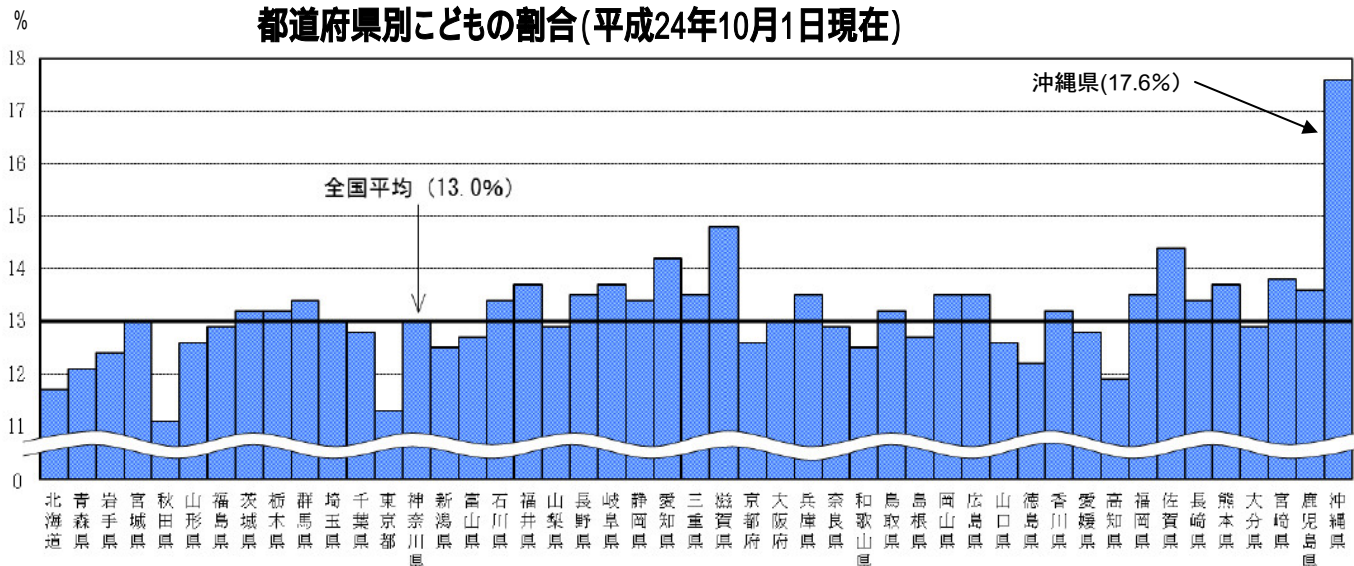
注) 割合 : 都道府県別人口に占めるこどもの割合

割合の高い順 : こどもの割合の高い順

対前年度差 : 平成24年のこどもの数(割合) - 平成23年のこどもの数(割合)

総務省統計局(H25.5.4発表)データより

都道府県別こどもの割合(平成24年10月1日現在)



(3) 沖縄県の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(2013年3月推計)によると、こどもの数は、平成22年の国勢調査人口と比べると、全ての都道府県でこどもの数が減少していきませんが、平成52年(2040)年時点で0 - 14歳人口の割合が最も大きいのは沖縄県(13.9%)となっておりますが、本県も全国と同じく少子化が進んでいます。



表2 0 - 14歳人口の割合 (%)

順位	平成22年(2010)			平成37年(2025)			平成52年(2040)		
	全国	13.1	全国	11.0	全国	10.0			
1	沖縄県	17.7	沖縄県	15.0	沖縄県	13.9			
2	滋賀県	15.0	滋賀県	12.7	滋賀県	11.7			
3	佐賀県	14.5	愛知県	12.3	佐賀県	11.6			
4	愛知県	14.4	佐賀県	12.3	宮崎県	11.4			
5	宮崎県	14.0	宮崎県	12.0	愛知県	11.3			